

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2008年4月26日発行 第41号

バンコク便り

タイ・バンコク在住の西川会長から

タイで日本語を教えて7年になりますが、その間在タイ日系企業の従業員に日本語を教えるということも幾度となく経験してきました。現在、タイには6000社あまりの日系企業が進出していると言われていたようですが、良しにつけ悪しきにつけ、それぞれに日本的な経営手法を持ち込んでいるようで、私も出張授業をしたり、学生たちと接したりする中で、そういった日系企業の内側を垣間見る機会をえました。

その中でも、いちばん印象に残っているのは、4年ほど前に教えたバンコク郊外にある従業員50人ほどの小さな会社でのことです。この会社は東京に本社にある企業の子会社だったのですが、会社の雰囲気はまさに「日本の会社」でした。社内は整然と整理されていて、土足厳禁上履き制を採用しているせいか床までピカピカに磨きあげられていました。こちらの会社で見られるような「食べながら、飲みながら、おしゃべりしながら」と言った「ながら仕事」は見受けられず、鬼のような日本人社長が奥で睨みを利かせていることもあって、社内全体にピンとした緊張感が張り詰めています。

初めて訪れた時は、あまりの息苦しさ、社会全体で感じる「ゆるさ」というものに慣れきったタイ人社員はすぐに辞めていくに違いないと勝手な想像をしたものです。日本的なものを持ち込みすぎなのではないかと思ったからです。しかし、このあと、この会社への出張を続けていくうちに、私はこの考えが間違いだということに気づかされることになるのでした。

この会社でいろいろなことを見聞きして感じたのは、その根本に常に「従業員は家族である」というポリシーが宿っている事でした。まず、日本語クラスに参加した顔ぶれです。どこの会社を見ても、こうしたクラスは業務で日本語を必要とする可能性のある大卒ホワイトカラーのみに開かれているのが普通です。しかし、この会社のクラスには、大卒の事務の女の子に混じって、ローマ時すらろくに読めない運転手のおじさん、倉庫番のあんちゃん、お茶汲みのお姉さん、掃除のおばさんが同席していたのです。後で聞いた話ですが、これは「希望者すべてにチャンスを与えたい」との最初は鬼のように見えた社長の意向でした。

(つづきはまた次回)

西川弘達@バンコク

特集記事

～2007 年度総会の報告～

毎年、4月5日（日）13時から新事務所であるNPOステーション2階フリースペースにて2007年度の総会が行われました。タイから西川会長が来日し、副会長の新井、運営委員、一般参加者、計11名の参加となりました。

まず、はじめに西川会長から挨拶があり「近年、タイのフリーという財団を通じた活動を行っていますが、視察・プロジェクトに関しての審査をフリーに頼り、元会長曰く行く行くは“タイ人によるタイの支援”にしていけたらという思いもあり、良い方向に向かっていると思います。精神的なバックアップにシフトを移していく時期になりつつあります」と話がありました。



続いて、運営委員各プログラム担当者から2007年度の活動報告を行いました。建設プログラムに関しては、2007年3月にチェンマイ県ドイサケット郡カサロンの家での食堂建設を行い、同年7月にはロイエット県ノンウェンブエンガム学校の集会場を建設するというワークキャンプを実施しました。

奨学金プログラムでは、2007年度は152名（うち大学生特別奨学金2名）を支援し、6月に奨学金授与式を現地タイにて実施しました。今までは、毎年6月と8月の年2回奨学金授与式を行っていましたが、予算に対しての奨学金授与式の出張旅費を抑えるため、今回は1回の授与式で10県を回るという強行スケジュールを突破し、地理的に離れている残りの4県に関しては今後授与式は行わず、継続奨学生のみ支援を続けるという形をとることになりました。現在、大学生特別奨学生は2名ですが、大学生一人に10万円支援する場合、中学生＆高校生に10名支援できるので、長年キャンヘルプタイランドの運営委員会や理事会で話し合ってきた結果、一人でも多くの子供たちに教育の機会を与えてあげたいということから、今後は大学生特別奨学生の新規は打ち切りとし、中学または高校からの継続支援生をどうしても大学に進学させてあげたいという特別な思いがあるドナーの方に関しては特例処置を取るという結論に辿り着きました。

その他、ランチプログラムではマハサラカーンの4つの学校へ支援し、学校給食の充実を図るためキノコ栽培場や養鶏場等の建設や運営のために支援金をあて、長期的なプログラムにすると担当者から報告が行われました。

図書支援プログラムでは、今年度も可児市の絵本コンクールにタイの子供たちの作品を応募し、残念ながら入賞は逃したものの、毎年レベルが上がりタイの子供らしい発想の作品は選考委員のコメントからも伺えて楽しい絵本となっていると担当者から発表がありました。また、毎年応募した作者には記念品として日本の色鉛筆を送っていましたが、今年は資金不足のため応募に協力していただいていた学校への図書支援は見送りとなりました。

収益事業・イベントに関しては、2007年度は4月にガイシホールで行われるメーデーフェスティバルと6月のスタディーツアー合同説明会、そして9月のボランティアフェスティバルに参加しました。毎年参加している米のもちの木広場で行われるワールドコラボには参加できませんでしたが、その他のイベントで行った雑貨販売やパネル展示により、キャンヘルプタイランドの活動を皆様にご存知いただける良い機会を持ってました。

一通り活動報告が終わると質疑応答が行われ、参加者からは「イベント収入がもっと増えないか？」という質問が出ました。これに関しては、昔は飲み物や食べ物（タイカレー）を販売し売り上げが良かったのですが、食品衛生法の問題もあり、会場から規制が出てやむなく物品だけ出している状況で、仕入れ・在庫管理・人の手配

など今の運営委員ではスタッフの人員不足で無理なので、雑貨販売を行っていますが、実際はなかなか売れないので物を売るよりイベントに参加することでキャンヘルプタイランドの活動を知ってもらうことのほうが大切であり、宣伝に力を入れていることをイベント担当者から返答させていただきました。

質疑応答が終わり、会計報告や2008年度の活動計画が各プログラムから発表され、15時前には終了となりました。

その後、同じ場所で懇親会が行われ、参加者と席を囲みしばし歓談が行われました。長年、キャンヘルプタイランドの活動を支えて下さっている会員の皆様や、ワークキャンプに参加していただいたことによってキャンヘルプタイランドに興味を持って下さった方、新たに事務所に訪問に来て下さった方など、いろんな方に集まっていただき、タイにまつわる話や笑い声が響く中、まるで同窓会のような和やかで暖かい雰囲気でお茶会が行われました。総会に出席して下さいました皆様、また委任状を提出して下さいました皆様、ご協力ありがとうございました。

総会議案書の追加事項

・理事の追加

2008年度理事に大矢麻由美（再任）を追加します。これにより理事は5名となります。

・2007年度山岳民族特別基金報告

ドイサケット郡山岳民族奨学生

34名の子どもたちに奨学金を授与し、それぞれ学用品の購入などに充てられました。

支援額の単位はバーツ

	名前	性別	支援額		名前	性別	支援額
1	Tomei Langtao	男	1500	18	Tomi Ja-u	男	1000
2	Naesue Langtao	女	1500	19	Salu Jala	女	1000
3	Na-oe Lahuna	女	1500	20	Nameeso Jakue	女	1000
4	Patcharaporn Puangsawan	女	1000	21	Mose Jamo	男	1000
5	Tula Jato	男	1700	22	Manora Ja-u	女	1000
6	Nora Jala	女	1000	23	Somchai Lahuna	男	1700
7	Jaruwan Monpak	女	500	24	Pornsuda Jowo	女	500
8	Eja Jasae	男	1000	25	Metta Jasue	女	3700
9	Lumee Yapa	女	2200	26	Prasong Jakue	男	1000
10	Mongkol Jala	男	1700	27	Tawatchai Puangjakta	男	1500
11	Nitnipa Watinwattana	女	500	28	Mako Jowo	男	1500
12	Somyot Na Nongpam	男	1000	29	Seksan Yaishid	男	1000
13	Jutamat Pichai	女	1500	30	Pisamai Sunanta	女	500
14	Suwit Jaye	男	1000	31	Santi Jaju	男	1200
15	Johnny Jaye	男	1700	32	Tip Kawin	女	1000
16	Mali Jala	女	1200	33	Suchart Jato	男	2200
17	Somchai Yapa	男	1500	34	Patorn Sukanchor	男	1000
合計							43800

特集記事 2

～カサロンの家～

2005 年度より支援を続けているタイ北部山岳民族の子どもたちのための学生寮「カサロンの家」ですが、支援も 4 年目に入り施設もだいぶ充実してきました。

2005 年 3 月	寮第 1 棟建設	2005 年 7 月	寮第 2 棟建設
2006 年 3 月	家畜小屋 井戸建設	2007 年 3 月	食堂棟建設
2008 年 3 月	寮第 1 棟改修 食堂棟追加工事		

現在は 13 名の子どもたちが共同生活をしながら近くの学校に通っています。

今年の 4 月からは日本人長期ボランティアがカサロンの家に滞在し、子どもたちの生活をサポートしながら、現地の生の情報を随時事務局へ送ってもらう予定です。その内容は今後の NT 通信でご報告いたします。

また、来年 3 月には、海を見たことのない山岳民族の子どもたちのために海水浴旅行を予定しています。大型バスを借りての旅行となりますが、キャンヘルプタイランドではこのツアーと一緒に参加していただける方を募集する予定です。詳細が決定次第、皆様には NT 通信等でご連絡いたします。



2007 年度カサロンの家の寮生

2007 年末時点でカサロンの家では 13 名の寮生が生活しています。2007 年度には新しく食堂棟が建設され施設もだいぶ充実してきました。親元を離れて暮らす子どもたちが、より快適に生活できるよう、今後も支援を継続していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

	名前	性別	学年	出身
1	ラッチャニー・ショームー	女	小1	
2	ペンポン・ショームー	女	小4	
3	カンジャンナー・ミーローン	女	小5	Chiangrai 県 Wiengpapao 郡 Huaysaikao 村
4	ナッター・ジャガ	女	小2	Chiangrai 県 Maesuai 郡 Mae Tum 村
5	ジャンタラット・パンヤウッティサクン	女	中2	
6	セーンスリー・サンティタイ	男	小4	Chiangrai 県 Maesuai 郡 Paadaeng 村
7	チャッチャイ・ジャイ	男	小4	
8	ポラマット・ジャジョン	男	小4	Chiangrai 県 Maesuai 郡 Maepaklae 村
9	ソラモー・ジャプー	男	小4	
10	ウォラウィット・ベオトゥー	男	小5	Chiangmai 市内
11	ウィチェン・ジャトー	男	中3	Chiangrai 県 Maesuai 郡 Paadaeng 村
12	パイサーン・ジョンラー	男	中3	Chiangrai 県 Wiengpapao 郡 Patung 村
13	ターニン・ナムジャイシラタム	男	中3	

～カサロンの家を訪れて～

2008年3月に1年ぶりにカサロンの家を訪れました。カサロンの家までは村の中をぬけ、田んぼや畑の間を横切りながら道を進んでいきます。ところどころに新しい家やきれいな壁などが見えると、知らないところに来たような気がして心細くなりました。しかし、カサロンの家に到着すると、そんな不安も消え自然いっぴいの同じ風景がありました。何もなかったところには青々とした畑ができており、かぼちゃやパクチーなどが植えられていました。大木の周りには花も植えられており、きれいでわくわくして心が和みました。また、新しい寮父母さんになっており、新しい生活が始まっていました。



今回私が訪れた時期に食堂の拡張工事と、1棟目に建てた土の家の壁の修復・補修作業が行なわれました。昨年3月のワークキャンプでは食堂の基礎工事までしか完成できませんでしたが、今はキッチンや洗い場もできテーブルセットが設置されており食堂として使われていました。土の家の方は壁の表面が劣化してきており、定期的なメンテナンス・補修の必要性を感じました。カサロンの家は子どもたちが職人さんと一緒に自分たちの手で家を建てて、生活の場をひとつひとつ作り上げてきました。小さい子は低いところを大きい子は高いところを、自分ができる力を使ってみんなで壁を塗ります。私はカサロンの家の建設の段階から参加してきました。毎年会う職人さんや子どもたちと一緒にこなす作業は愛着があって楽しいものです。今回は時間が合わずに参加できませんでしたが、こういった形で子どもたちと長年関わられてきて嬉しいです。

報告 伊藤理絵

～カサロンの家 長期滞在ボランティアからの報告～

はじめまして！

キャンヘルプタイランド会員の皆様初めまして、私は名古屋大学大学院国際開発研究科の浅井美里と申します。4月1日にチェンマイに到着し、11月中旬までカサロンの家のボランティアとしてやって参りました。今までベトナム・カンボジア・中国などいろいろな国を旅して来ましたが、今回初めてのタイそして初めての長期海外滞在なので、チェンマイ国際空港に降り立つまでドキドキでした。こちらに来る前に「絶対に体調を崩すから、初めのうちはスポーツ飲料だけで過ごすことになる！」と言われていたので、どうなることかと思いましたが、体調を壊すことなく毎日元気に過ごしています。



チェンマイは、スタッフの皆さんだけでなくご近所の方々もとても優しく、暑さだけが問題ですけど、大変過ごしやすいです。朝の5時6時から鶏やら日本では聞いたこともないような鳥が一斉にキーキーピーピー鳴き始めるので、未だに朝寝坊というものを経験していません。もちろん目覚まし時計など必要ないくらいです。コミュニケーションの方はといいますと、まだタイ語は全然わからないので、もどかしさも感じますが、毎日指

差し会話帳とにらめっこしながら練習しています。よく使う言葉は「ローン・マイ？」(暑くない?)「ヌウィ・マイ？」(疲れてない?)「アローイ！」(おいしい)などです。まだまだ文章を話せるようになるには時間がかかりそうですが、少しずつ少しずつ話せるように頑張っています。早速タイの名前をつけてもらいました。私の名前が美しい里と書くので、発音は定かでないのですが、「るうーあん・きゃあお」で、美しい家という意味だそうです。

現在子どもたちは長期休み中で地元に戻っていますので、子どもたちが帰って来たらお土産代わりに名古屋から持参した4~5mくらいある鯉のぼりを一緒にあげて楽しもうと思っています。その時はまたお写真で皆さんにお知らせできればと思っています。それではカサロンの家の最新情報をお送りします。

こちらが4月上旬のカサロンの家の中の女の子の家です。まだ窓やドアがありませんが、中はすでにピンク色のタイルが敷き詰められています。私も作業を手伝いましたが、窓枠を綺麗にし、ペンキを塗り、窓をはめ込む作業は大変です。スタッフのみんなは黙々と作業に勤めます。よくタイ人はマイペースでなかなか進まないと聞きますが、こんなに暑い中よく働くなあと頭が下がる思いです。私も負けずに動こうとするのですが、「Misato! Take a rest!」と言われる位フラフラになってしまいました。キッチンも最近立派なネットができました。来月になればここに子供たちが集合して仲良くご飯をたべるのでしょう。日々環境の改善と支援の広がりを感じています。



活動報告

～オリックス社会貢献基金様より助成金を頂きました～

平成20年3月末に、オリックス株式会社オリックス社会貢献基金様より50万円の助成金を頂きました。このお金は、2008年度ビルディングプログラムの教室棟建設資金の一部として使わせていただきます。オリックス社会貢献基金様、ありがとうございました。

お知らせ1

～奨学金ドナーの皆様へ 寄付金締切日のお知らせ～

今年度は、昨年同様奨学金授与式の時期の関係で入金締切を5月末にさせていただきますので、引き続きお早めにご入金いただきますようご協力お願い致します。少しでも早く学生にドナーの皆様のお名前を知らせることができるよう、ご協力お願い致します。

なお、期日を越えた場合は、翌年度の支援にさせていただく場合がありますので、ご了承いただきます様よろしくお願い申し上げます。

今年度の締め切りは、5月30日(金)とさせていただきます。

奨学金スタッフより

お知らせ2

～2008 年度夏のワークキャンプ参加者募集～

【日程】 A 日程：8 月 23 日（土）～8 月 31 日（日） 9 日間
B 日程：8 月 23 日（土）～9 月 6 日（土） 15 日間

【費用】 参加費 53,000 円～63,000 円

- ※ 航空券代は別途必要です。バンコク往復の航空券をご購入下さい。日本国内の移動費は参加費に含まれておりません。
- ※ 参加費の中には、建設作業に必要な資材購入費等の建設費、現地での生活費・食費・移動費・滞在費、日本国内の事務経費、現地コーディネーター通訳費用、会の運営に必要な寄付金、会費 1 年分等が含まれています。
- ※ 現地滞在中の食事は参加費に含まれますが、空港等での自由時間中の食事は含まれません。

【行程】

月日	時間	行動内容	宿泊
8月23日（土）	8:00	中部国際空港集合	学校
	夕方	バンコクへ到着	
	夜	サッケーオ県到着（バスで移動）	
8月24日（日）	午前	オリエンテーション	//
	午後	学校周辺見学	
8月25日（月） ～ 8月29日（金）	終日	建設作業・交流	//
8月30日（土）	午前	A 日程バンコクへ	機中
	深夜	名古屋へ出発	
	終日	B 日程：建設作業・交流	学校
8月31日（日）	朝	A 日程：名古屋到着	学校
	終日	B 日程：休息日	
9月1日（月） ～ 9月4日（木）	終日	建設作業・交流	学校
9月5日（金）	午前	バンコクへ出発	機中
	深夜	名古屋へ出発	
9月6日（土）	朝	中部国際空港到着・解散	

※ 行程は変更する場合があります。

※ 名古屋を深夜に出発する航空便を利用するプランも検討中です。

参加希望の方は事務局まで FAX か電子メールで資料請求をお願いします。

募集要項・申込書等をこちらからお送りいたします。

応募締め切り 7 月 25 日（金）

イベント

～今後開催されるイベント情報～

○ スタディーツアー合同説明会

8月のワークキャンプの説明会を下記のように行います。

日 時：2008年6月1日（日）15:00～17:00

場 所：伏見ライフプラザ12F 第1研修室（地下鉄「伏見」駅下車徒歩8分）

主 催：特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

この説明会への参加には参加費が必要なので詳しくは名古屋 NGO センターにお問い合わせください。

名古屋 NGO センター TEL 052-483-6800 FAX 052-483-6801

URL : <http://www.nangoc.org>

運営委員会

（2008年2月～2008年4月）

活動	月日	場所	内容
運営委員会	2月24日	名古屋事務所	会報・議案書準備
運営委員会	3月22日	名古屋事務所	総会準備 カサロンの家訪問報告
総会	4月5日	名古屋事務所	200年度総会 懇親会
臨時運営委員会	4月5日	名古屋事務所	NT 通信編集会議 夏のワークキャンプについて

運営委員募集

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？ 毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 5月24日（土）13:00～（事務所にて）です。

編集後記

▼ キャンヘルプタイランドが2005年から支援をしているタイ北部山岳民族の子どもたちのための学生寮「カサロンの家」に、この春から長期ボランティアが滞在することになりました。これから11月までカサロンの家に滞在し子どもたちの世話を手伝いながらいろいろな報告をしてくれると思います。現地から届いた報告はNT通信にも掲載していきますが、カサロンの家のブログでも最新情報をご覧ください。ぜひ下記のアドレスをご覧ください。

カサロンの家ブログ

<http://kasalong.blogspot.com/>

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.41>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2008年4月26日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 毎週火、木・土曜の13~17時)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>